

令和3年1月27日

東大阪市教育委員会
教育長 土屋 宝土様

東大阪市社会教育委員の会議
議長 杉森 隆志

第四次東大阪市生涯学習推進計画について（答申）

令和元年9月24日付け東大阪教委社第1613号で諮問のあった第四次東大阪市生涯学習推進計画について、慎重に審議を積み重ね、別冊「第四次東大阪市生涯学習推進計画素案」のとおりとりまとめましたので、ここに答申いたします。

本市の生涯学習については、現行の第三次東大阪市生涯学習推進計画の基本理念である、「まなびにトライ！ ひとをはぐくみまちをつくる 大好きなまち東大阪」を実現するため、「まなびづくり」「ひとづくり」「まちづくり」の3つの視点からまなびの循環型サイクルが進められてきました。

新計画では、この流れを止めることなく、更に一歩進めて個人の学びから仲間とつながり、そして仲間との活動がまちづくりへとつながっていくことで、学びのサイクルを広げ、生涯学習全体の活性化を進めていくことが必要です。

また、情報化の進展をはじめとする変化の激しい時代にコロナ禍が重なる今日、生涯学習の推進は非常に困難な時期を迎えています。これからの生涯学習施策が、新しい技術を積極的に活用していくことと同時に、人間同士のふれあい中で培われる感性の大切さも忘れることなく、つながり、高め合う学びを追求していくものであることを期待します。

なお、第四次東大阪市生涯学習推進計画の推進に当たっては、本会議での意見を十分踏まえるとともに、下記の事項にご配慮いただき、生涯学習施策を着実に進めていかれることを強く要望します。

記

1. すべての人に開かれた生涯学習を推進すること

私たちにとって、人生100年時代をより豊かに生きていくためには、生涯にわたって自ら学び続けることが重要です。すべての人々があらゆる状況に関わらず、希望に応じていつでもどこでも生涯学習活動に参加できるよう、学習環境の整備や参加のために必要な支援の充実を図られたい。

2. 生涯学習の周知について、様々な工夫をしていくこと

計画策定に際して行った市民意識調査では、「生涯学習」という言葉そのものの認知度が低いという結果が明らかになりました。また、市の情報発信手段についても市民の活用状況に偏りがみられ、生涯学習情報が上手く市民に伝わっていないことが見受けられることから、生涯学習に関する情報発信の更なる強化に努められたい。

3. 庁内横断的な施策の推進体制を図ること

計画に基づいて生涯学習施策を推進していくには、庁内のあらゆる組織が一丸となり、各分野で最大限の取組をしていくことが必要です。計画の進行についてもしっかりと把握され、市全体で着実に施策を進められたい。